

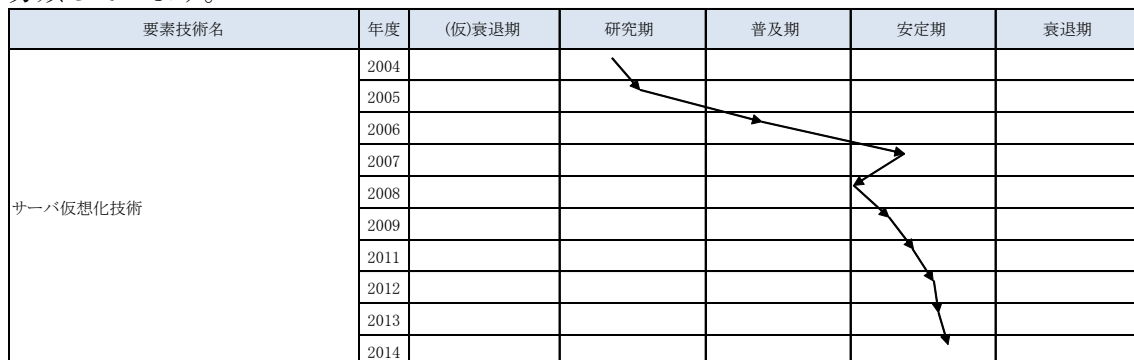
※ 「5年後に必要な技術」の予測結果概要

技術分野	必要な情報技術
1)基盤技術	・ サーバ仮想化技術
2)サーバOS	・ Linux等オープンソースのサーバOS
3)ミドルウェア	・ オープンソースアプリケーションサーバ ・ オープンソースDBMS ・ BI
4)プログラム言語	・ Java ・ C#
5)セキュリティ	・ シングル・サインオン ・ フィルタリング ・ 情報漏洩防止ツール
6)開発技術	・ テスト支援/自動化ツール ・ アジャイル開発/反復型開発
7)開発管理	・ プロジェクトマネジメント手法 ・ ITIL/ITSMS ・ CMM/CMMI ・ ISMS
8)クライアント	・ スマートフォン

※ 「情報技術マップ調査」の概要

情報技術マップ調査はシステムインテグレーション（SI）に用いられる要素技術が普及から衰退までのライフサイクルを辿るという前提に立ち、各要素技術が今どのようなステージにあるかを可視化することを活動内容としています。情報技術マップにより技術者各個人、SI企業、ユーザ企業のそれぞれが技術動向を把握することが可能となり、今後の成長戦略を検討する際に活用されること等を期待しています。

アンケート調査ではJISA会員である国内情報サービス産業に携わる企業（会員企業数は2015年時点で520社）のIT技術者を調査対象として、120超の要素技術について、業務での採用実績や、今後の着手意向といった取り組み状況を聞いています。その結果は要素技術ごとに「ライフサイクルマップ」として研究期、普及期、安定期、衰退期の4段階に分類しています。



【図：ライフサイクルマップの例】

なお、2015年度の調査は現在、会員からの回答受付中であり、本年5月に報告書の発行を予定しています([http://www.jisa.or.jp/it\\_info/engineering/tabid/1839/Default.aspx](http://www.jisa.or.jp/it_info/engineering/tabid/1839/Default.aspx))。

#### ※「5年後に必要な情報技術」の選定方法

情報技術マップ調査では「この技術の利用実績がある」と回答された割合を「SI 実績指数」として集計しています。今回は 2004 年から 2014 年までの 10 回分（2010 年は欠測）の SI 実績指数をもとに 2020 年までの予測グラフ（対数近似）を作成しました。この技術分野ごとの予測グラフをもとに WG メンバーで近年の技術動向を踏まえたディスカッションを行い、選定しました。

なお、情報技術マップ調査では世の中の技術動向に応じてアンケート対象の要素技術の入れ替えを行っているため調査期間が数年程度しかない要素技術も少なくありません。そのため今回の予想ではほぼ 10 年間継続して調査対象となっている要素技術に絞って分析を行い、10 年に満たないものは参考データとして扱っています。

以上